第5回安曇野市新市立博物館整備方針検討委員会 会議概要

- 1 会議名 第5回安曇野市新市立博物館整備方針検討委員会
- 2 日 時 令和7年1月14日(火) 午前10時00分から11時30分まで
- 3 会 場 安曇野市役所本庁舎 共用会議室 306
- 4 出席者 笹本正治委員、百瀬新治委員、金井直委員、佐藤亜紀子委員、中村寛志委員、 丸山亨委員、倉石あつ子委員
- 5 欠席者 横山はるえ委員
- 6 市側出席者 洞教育部長、三澤課長、事務局、逸見係長、児玉副主幹、原明芳館長、平沢館長、 寺島館長
- 7 公開・非公開の別 一部非公開
- 8 傍聴人 1人 記者 1人
- 9 会議概要作成年月日 令和7年1月20日

会議事項等

○会議の概要

- 1 開会 (三澤課長)
- 2 あいさつ (洞教育部長)

(笹本委員長)

3 協議

一部非公開について

市情報公開条例第5条第1項1項第5号に基づき協議事項(3)を非公開とするよう決定した。

(1) 「安曇野市新市立博物館等整備に係る提案書」について

(事務局説明)

(委員)

市民連携のあり方について郷土博物館の友の会は調査研究等を補完、あるいは博物館等の職員との連携した活動をこれまで進めてきたが、そもそもは公民館活動等で運営されてきていた同好会組織が出発だ。

現在もそういった部分が色濃く残っているため、示された案では新市立博物館建設後もそのまま引き継いで 友の会との協働を中心というふうになっているが、同好会的活動の会については他部署と調整し、そちらに所 属するようにして新市立市博物館と本来的な協働ができる友の会だけを残して充実させるといった市民連携が よいと思う。

(委員長)

いままで豊科郷土博物館では地域の事情があったが、今回は新市立博物館と友の会をどのように連動させていくかが課題だ。

新たな博物館としてはどうあるべきかという理念を持ちながら、事務局には公民館活動的な地域的な部分と そうでないものを峻別しながら検討してもらいたい。

(事務局)

あまりこの部分にとらわれすぎてしまうと、本来の建設に係る検討から外れてしまう恐れもあるため、詳細はこの検討委員会が終わった後の博物館のビジョンや運営に係る段階で検討したい。

現段階では市民との協働という形を提言書案としている。

(委員)

友の会の中で、ターゲットを親子中心ということであれば現在のタカラさがし部の活動が新市立博物館の目 玉となると考える。新市立博物館構想の柱に関わるものとして大事に扱ってほしい。

(委員長)

タカラさがし部の活動は学校の探究の時間と密接な関係を持ってくる可能性がある。子供たちのことを含み 込みながら考えてほしい。

(委員)

今回示された提言書案は博物館施設全体のコンセプトで市民や地域との連携といった観点が強調されている 点は今後のビジョンのあり方として非常に納得のいく方向性が示されていると考える。

確認になるが、施設構成案の展示部門で作業室とガイダンス展示室とはどのようなものか

また、企画展と常設展を現段階できっちり分ける理由は何か。実際にそれぞれの空間がどのように機能するのかといった議論はもう少しあってもいいのではないかと思った。

常設展も企画展示もかなり重なっていくのではないか。つまり場合によっては 850 m²で展開する方が機能的な展示になるケースもあるだろう。

また、収蔵庫の活用とも関連してくる。いわゆる収蔵展示だ。具体的には旧三郷民俗資料館のように旧温村役場であった木造の建物でミュージアムというには難しいが、魅力的ではある。整えられたキュレーションが完結した展示を見るのとは違う、お宝拝見的にその物に直に触れる感動は捨てがたい。昨今見られる収蔵庫の一角が公開され、そこにデジタルタグをつけるといった、収蔵庫と展示の中間的な空間があってもいいのではないか。

(事務局)

作業室は新市立博物館構想では管理部門で記載があるが、今回の案は学芸員が展示のための作業をする場所 ということで30 m²としている。基本的にバックヤードの一環、主に展示の準備等に利用されるものと考える。 ガイダンス展示は見どころやあるいは新しい発見があった場合の一時的な展示に利用したいと考える。

常設展示室と企画展示室については委員意見のとおり一つの空間との案も検討させていただく。収蔵展示についても、資料が溢れている現状で収蔵展示が可能か検討させていただきたい。

(委員長)

『リピーターを確保するために定期的に常設展示替えを行う』と書いてあるのが特徴的だが、頻繁には展示替えできない。多くの人に来てもらうのは企画展示であるため、このような分け方をしていかざるを得ないのではないか。

収蔵庫展示はお宝探し的なやり方もあると思う。

(委員)

紀要はどの部門で担当するのか。

また、自然資料になると植物昆虫の燻蒸や収蔵については他の資料と違うと思うがどのようにするか。 (事務局)

紀要は従来も博物館の館長、学芸員等が書いていたため、新市立博物館でも専門部門を設けることは想定していない。

自然資料の収蔵・燻蒸については施設の具体的設計や基本計画を作っていく段階で検討していきたい。 (委員長)

紀要についてはどういう情報発信をしていくか、いかにして新市立博物館が市民のものになっていくかということにも繋がってくる。

(委員長)

「A 案が望ましい。ただし、A 案が困難な場合は参考までに B 案を用意しました」と順序づけをしてほしい。 (委員)

現在安曇野市の観光の分野では、アウトドアというキーワードで多くの活動をしているが、それを盛り上げる人、来たお客様をもてなす人がとても重要になっている。

やはり人はすぐに育つものでもない。できるだけ早く人の育成を具体的進めていただくことで、建物が仕上がったときに、すぐに円滑な運営ができるため、次のビジョン等の検討段階に期待したい。

(委員長)

学芸員の検討は必要なのは間違いないが、市の予算や人の問題等をあまり大きく制約しすぎない範囲で次の検討段階に移行したいのが私個人の考えだ。

ただ、人材の活用、人材の育成は博物館だけの問題でなく、観光や公民館の問題、横の連動等、博物館がどのように横に繋がりながら地域活性化に寄与するかといった大きな課題になってくるので事務局で検討してほしい。

(委員)

今回の提言書案は主なターゲットを親子としている中で体験の充実やカフェについて触れていて、良いと思う。

市民との協働については市民のボランティアが案内するといった新しい支援やカフェの運営を障害者支援施設に委託するような形で共生社会を実感できるようなことも考えられるのではないか。

(委員)

新市立博物館構想を巡る現状と課題の部分で「平成28年度に新市立博物館準備室が設置」が述べられているが、新市立博物館はどうあるべきかといった核になるようなことは何も検討してこずに終ってしまった。 本当にコンパクト展示実施によって市民に博物館について知ってもらう機会を増やしたのか疑問だ。 表現を再考してほしい。

また、企画展開催にはやはり人がいる。学芸員の幅広く深い知識がないと表面的なものになってしまう。単純に人を増やせばいいのではなく、人材の採用に当たっては注意してほしい。

友の会については既存の引継ぎではなく一度白紙として、取捨選択のうえ新しく発足するのが一番いい方法 だと思う。

- (2) 立地条件について(非公開)
- 4 その他 特になし
- 5 閉 会 (11:30)